

加藤論文(No.2005-01)へのコメント

中里 透（上智大学経済学部）*

総括的なコメント

○この論文は、公的年金制度を保険方式で（国庫負担をいれずに）運営することとした場合に、年金財政が持続可能であるか否かを時系列分析の手法を用いて分析したもの。

○利用可能なサンプル数の制約から検出力に問題が残るものの、従来あまり試みられることのなかった分析手法を用いて年金財政の分析を行なっていることに重要な意義が認められる。

質問

○この論文では、SNA ベースの年金給付額と年金負担額をもとに分析が行われているが、実際の年金制度においては、制度ごとに給付と負担の関係がまちまちである。このような中で、SNA ベースの年金給付額と年金負担額をもとに年金制度の持続可能性を検討することの意味についてはどのように理解したらよいのか？

○4 節で行なった VAR モデルを用いた実証分析の結果から、「年金給付は経済成長とはほぼ無関係に決定され、また給付と負担の間には有意な関係が存在しない」との結論が導かれているが、この結論は現行の年金制度のどのような特徴から生じているものと考えられるか。

* nakaza-t@hoffman.cc.sophia.ac.jp